

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502371		
法人名	株式会社 香島コンサルタント		
事業所名	グループホーム コマクサの家		
所在地	札幌市豊平区月寒西1条2丁目1番35号		
自己評価作成日	平成 27 年 11 月 27 日	評価結果市町村受理日	平成28年1月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0170502371-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1 あおいビル7階
訪問調査日	平成 27 年 12 月 22 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>地域の中での認知症ケアの中核的相談機関を目指しております。</p> <p>近年特に議論されている高齢者の人生の最終段階における医療、看取りについての研修に積極的に参加し、実際のケアに生かせるよう職員の専門知識の向上に努めています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当ホームの優れている点は、重度化や終末期に向けた方針と支援、またターミナルケアに対するスキルの高さが、今年度の4例目の看取りを通してしっかりと培われていることです。医師と家族の度重なる話し合いと調整、「看取り介護の対応表」もスタッフにとって現場での支援に大きな役割を果たしています。ケアプランでは利用者個々の状態を的確に見極め、調理への参加、買い物やホームの掃除など自立に向けた支援を目標にし、家族との連携も良く出来ています。また、ホーム内のインシデントに関わる内容記載とその場の措置、事故後の対応として6日間の継続したモニタリング対応など詳細な記載が優れており目を引きます。更にヒヤリハットの記載をより充実させて、セーフティマネジメントの推進をスタッフが協力して取り組んでいることです。管理者、ユニットリーダーとスタッフが落ち着いた環境作りを通して、利用者それぞれのその人らしい自立した生活への支援がこの「グループホーム コマクサの家」で営々と行われています。</p>
--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果 ↓該当するものに○印	項目	取組の成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○ 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○ 1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○ 1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○ 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○ 1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に豊かな暮らしやすい地域社会を目指すを明記し、毎日唱和している。	大きな柱として「利用者それぞれのその人らしい自立した生活への支援」を運営理念に謳いつつ、加えて4つの支援方針を定めて、スタッフの日常的なサービス支援と実践を分りやすく導いています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会行事に参加したり、ホームの行事に町内会も参加したりと社会資源の活用を積極的に行っている。	管理者及びスタッフは、地域との交流の重要性を十分認識しつつ、町内会の諸行事への参加や幼稚園児・小学生との交流の機会を大切に、また、ホームで行う敬老会には町内からの来客で賑わうなど地域との交流が継続されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、広報誌などで認知症ケアに関する話題を発信している。 中学校や近所の方のボランティアを受け入れ、実状や認知症に対する理解が深まるよう説明している		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	情報提供だけでなく参加された方々の疑問、質問意見をとりいれている。 出来るだけ多くの町内会の皆様の参加を頂けるよう声掛けしている	若干のずれはあるものの定期的な会議の開催となっており、毎回家族の出席を得ながら、ホームの状況や行事の内容が報告されるなど活発な様子が議事録から覗い知ることができます。	近隣の町内会長及び住民、民生委員など身近な方々の参加をお願いし、また、市の関係者、消防署員など幅広い方々の出席を要請するなど、会議の持つべき意義に配慮された取り組みが期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政担当者とは連携をとり、連絡報告相談をおこなっている。市の主催する会議には必ず出席し関係を深めるようにしている。	市の担当者とは福祉、介護行政全般の相談や指導を得て理解と連携を深めておりますが、今後は自己評価及び外部評価の内容を報告するなど一層の連携を図ることとしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	採用時、採用後研修、外部の研修も利用し身体拘束禁止を理解できるようにしている。自分がされていやなこと視点を意識し、資料も掲げている。	スタッフは、身体拘束をしないケアの趣旨を十分に理解しつつ、日常のサービス支援に反映するよう努めています。日中の玄関の施錠は、ホーム前の交通事情により止む無く行われていますが、今後は気配りの充実及びセンサー採用など施錠に代わる安全対策を検討することとしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待とは何かを常に考えるよう指導し、研修にて理解を深めるとともにサービスの質向上に、ユニット内で見直しを随時行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	採用時研修カリキュラムにて研修機会をもうけ、外部研修参加への取り組みも行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に重要事項説明及び契約書内容について説明し同意をえている。契約時にも再度説明し疑問にお答えし理解、納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の他に、ご家族来訪時に近況を伝え、都度意見も訊いている。カンファレンスをお伝えし、希望時利用者もカンファレンスに参加して頂くようにしている。	家族の来訪頻度が比較的多く、来訪の機会を捉え、利用者を交えた意見や要望を伺うようにしています。ホームではカンファレンスにも家族の参加をお願いし、スタッフとの馴染みの関係づくりと適切なケアプラン作成に反映するよう努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各種会議を開催したり、職員にアンケートをとるなどして意見をとりいれている。	毎日の申し送りやミーティングに加えて、日常のスタッフ間の風通しの良い職場作りの中で忌憚のない意見交換が行われています。法人はスタッフへのアンケートを実施しながら勤務に対する意見や提案などの把握に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス導入し職員の資質向上及びモチベーション維持向上を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修機会を積極的に促し、費用にかんしては最大限法人にて支出するようしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	他施設の訪問、見学を行う機会を設け、疑問、質問の場を設け資質向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	スタッフ一人一人が本人と会話する時間をつくり要望を確認し関係を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	こまめに連絡をとり、来訪時に要望などを聞き良い関係を構築している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来る事や出来そうな事の見極めを行い、本人と家族の思いを取り入れた支援を行っている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場面で言葉使いに気をつけ教えていただくという姿勢を常にもって接している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時に報告だけでなく希望など選択肢をだし、家族が言いやすい雰囲気作りを心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人の面会は積極的に受け入れ、個人の外出支援で馴染みの場所へ訪問している	友人が訪問の際は、皆で歓迎し、再度来ていただくことを促すなど、馴染みの人との繋がりを大切にしています。また、恒例の食事を兼ねたサッポロファクトリーのクリスマスツリー見物、月寒神社の祭典、近くの公園での花見など家族の協力も得ながら、馴染みの継続を支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の中で調理や掃除などお互い助け合い協力しながら行える様支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族からの相談があれば誠意をもって聞いている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全員一緒の生活パターンではなく一人ひとり自分らしく生活できるよう日頃から観察している。	利用者個々のその人らしい暮らしを支援するため、「気付きシート」を採用して、思いや意向の把握に努めています。気付きは小さなことでもカンファレンスなどで周知しスタッフ間で共有が図られています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話を通じ本人の思い、経験が聞けるようかかっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	他者との共同作業の中で各個人の有する力を見極め一人ひとりの暮らし方を探っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを行いカンファレンスを定期的に行い、迷った時には再度アセスメントを行いスタッフ全員の意見を集め、家族と話し合いプランを作成している。	「気付きシート」などにより利用者の意向を取り入れ、カンファレンスを経てケアプランが作られています。利用者を支えるプランですが、最初に作られるケアプランは家族にも説明し話し合われるなど、家族との連携がスムーズに行われています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフからの気付きは実践のうえ全員で情報共有しプランに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人と家族のパイプ役としてお互いの思いを代弁したり安心して話せる関係づくりをしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出希望時の支援として公共機関の利用ができるのか等を検討し支援につなげている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	他医院からの処方や指示があればかかりつけ医に連絡状況報告している。	ホームの協力医療機関が、かかりつけ医となって利用者の体調維持に努めています。従来から通院している他の医療機関の受診も情報の交換を行いながら支援に努めています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本人の変化に気付いたら看護師へ状態の報告を行い見ていただき、指示を受け対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、本人の情報提供を行い入院中は病院と連絡を取り情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は本人、家族と話し合いを通じて思いを知りスタッフ全員での支援に努めている。早めの打ち合わせ、相談にのり情報提供をしながら家族の不安を軽減できるようにしている。ご本人には意思確認できる段階からさりげない聞き取りをおこなって本人の意思が生かせるよう支援している。	当ホームでは、「医療連携体制」がしっかりと整えられ、重度化などへの対応指針とそれに続くターミナルケアへの方針、医師を交えた方針も細やかに家族に説明し同意の下に進められています。今年も4例の看取りを行い、職員の意識の中にも必然の条理として定着しつつあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し訓練も実施しながら自信を持って対応できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の実施。安全に入居者さんを避難させる事、生命優先を徹底。 参集計画のマニュアルを作成徹底している	昼夜を想定した年2回の避難訓練が実施されて、火元を各ユニット間で移動させての避難訓練となっていますが、非常口のない3階の建物だけに緊急の場合は不安も残ります。また、近隣の住民の直接参加が少ない状況です。	建物の構造から、独自の避難訓練に加えて消防署の指導も欠かせないものと考え、避難訓練への参加要請、また住民の理解を頂く取り組み及び備蓄品は多少あるものの冬季間での暖房対策など、条件に応じた対策を深める取り組みをきたいします。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	フロア支援方針として「常に目線を合わせ、丁寧な言葉遣いをする」を毎日唱和している。	常に真心を込めたアイコンタクト、丁寧な言葉遣いで利用者と接する「フロア支援方針」を毎日確認しながら、人格の尊重に努めています。また、失禁の際も他の利用者に気付かれないようプライバシーにも配慮されています。	家族等の訪問に際して記入いただく「面会簿」はともすれば個人の情報の漏洩にも及ぶ恐れがあります。単票の記入方式にするなど、プライバシーに配慮した取り組みが期待されます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	フロアの買い物等希望する食材やおやつ等決めて頂けるよう声掛け選択して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	本人の体調など状況にあわせ家事や余暇への促しをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に鏡で確認して頂き不足部分は支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	支度や片づけはひとりひとり分担し役割を持って行っている。食事中もスタッフが食事を共にしながら話題提供し楽しまれている。	スタッフからなる献立委員会が1週間の献立を作成しますが、その時々で旬の食材や利用者の提案を取り入れ、変更する場合があります。利用者の下拵えから、味付け、盛り付け、食後の食器洗いなどの参加で作られています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー制限の方は盛り付けの工夫、誤嚥のリスクがある方には、刻み、ムース食など一人ひとりに合わせた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の状態を確認し、声掛けや不足部分を支援している。スタッフだけでは難しい方は訪問診療を受け歯科衛生士などのアドバイスをうけている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄間隔を把握したうえで、声掛け行い失禁がなくなる様とりにくんでいる。	利用者の排泄パターンの把握により、適切な言葉かけなどの誘導で出来るだけ自立したトイレでの排泄を支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の時は適度な運動から開始し、食べ物の工夫を行っている。水分摂取量にも気をつけ本人の苦痛にならない程度に促し、嗜好も考えて提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	拒否がある方には本人が入りたいと思える場面を演出しタイミングよく声掛け支援している。	週2回以上の入浴を前提に入浴予定が立てられていますが、入浴を拒む場合や体調が優れないなどの状況に合わせた柔軟対応で、楽しい入浴の支援が行われています。スタッフはマンツーマンの支援の中から、利用者の生の声に接する好機と捉えています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠の時には暖かい飲み物を提供したり、入眠前に「寄り添う」等して安心感をもっていたかく。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬セット時に目的や副作用のついて確認できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や掃除の場面でひとりひとりの役割があり張り合いがもてるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の希望に沿える様外気浴や買い物に行っている。私物購入時は同行外出し希望に合わせて支援している。	閉じこもりがちになることによるストレス解消を兼ねた外出の支援が行われています。利用者の希望に添ったホーム前での外気浴、買い物、公園散歩、3つのユニット合同のドライブでは法人のバス、また、介護タクシーを利用して出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時の受領や支払いを行ってもらう事でお金の大切さを忘れない様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話の希望があればすぐ利用していただけるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱しないよう表札をつけたり、目線の位置も考慮している。温度、湿度は一定に保てるよう暖房や加湿器で調整している。季節感を意識した飾り付けも行っている。	広々としたゆとりの居間と食堂、利用者も調理に参加し易いアイランド方式を取り入れた厨房、笑顔溢れる写真がたくさん掲示された廊下、廊下のあちこちに置かれた椅子・ソファも利用者の大切な居場所、折りしもクリスマスを迎える一杯の飾り物など心地よい共用空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の好みの空間で過ごせるよう日常の変化に合わせて対応している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の趣向に合わせてたり、使い慣れた物を使用して環境を変える際には家族へ相談する等慎重に行っている。	居室には、使い慣れたベットや化粧台、リクライングのイスと衣装ツールなどが持ち込まれ、暖かな雰囲気を出しています。特に優れているのは、利用しやすい押入れが備わり引き戸が家庭そのものの感じで、居室のスペースをより広くしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	導線を意識し自立歩行が安全に行えるよう工夫している。		